

日時：2022年1月22日（土） 14:00～16:00

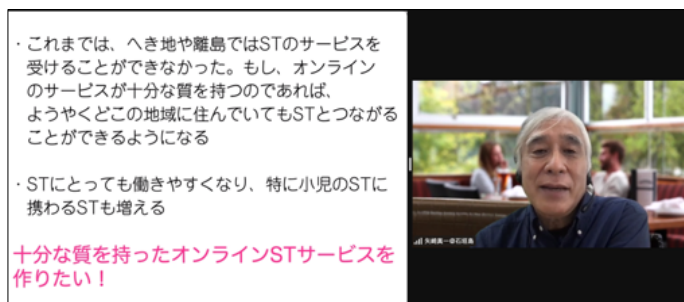
場所：オンライン

内容：「沖縄本島から 400 km リソースが乏しい八重山諸島でトライしたこと」

発表者：ファーストハンドコミュニケーション代表 矢崎真一氏



矢崎真一先生



当日の講演の様子です

今回の定例会は、「沖縄本島から 400 km リソースが乏しい八重山諸島でトライしたこと」として、ファーストハンドコミュニケーション代表の矢崎真一さんに、石垣島からオンラインでご講演いただきました。

### 【講演の概要】

石垣島・西表島・波照間島・与那国島などの島から成る八重山地域での移動手段は飛行機や船であり、季節や天候によっては移動が困難であるといった厳しい地理的条件があります。その八重山地域に 18 年前に移り住んだ矢崎氏は、STの継続的・定期的な介入が必要な方々に対して「どこでもドアがないなら」と、オンラインでの支援を開始しました。今でこそ、オンラインシステムが一般的に利用され、遠く離れた人と顔を合わせたやり取りが当たり前になりましたが、矢崎氏は 2006 年頃から電話回線を使い、行政や学校に働きかけながら、ほぼボランティアでオンライン支援を進めてこられました。また、八重山地域の子どもたちの発達支援を行うことを目的に 2009 年にファーストハンドコミュニケーションを、さらに 2014 年に志を同じくする仲間と一般社団法人八重山地域リハビリテーション支援ユニット「YARU（やーるー）」を立ち上げました。そして 2020 年にオンラインによる ST サービスを提供したいと一般社団法人「Coco-on（ココオン）」を設立し、またサービスを提供する ST が使いやすいデジタルシステム「ハレカラα」を作成するなど、精力的に新しい支援にチャレンジされ続けています。

質疑応答では、離島だけでなく豪雪地域などでのオンライン支援の必要性や、オンラインによる発達障害児の支援についてなど様々な意見交換が行われ、他地域でオンラインでの支援を行っている受講者からは「今回のトピックはまさに私が今知りたかった内容でした。離島ならではの船の欠航など訪問の困難さ、オンライン環境の整備の問題、オンラインでの受信課題の方法などぜひ情報交換していきたいと思いました。」といった声がきかれました。

今回の講演では、今まさに必要な支援を必要な人に届けること、長期的な視点に立って持続可能な仕組み作りをする視点、そして ST 同士のつながりについて考える貴重な機会となりました。

### 【参加者の声】

- ◎ コロナの感染拡大により、オンラインのニーズが高まる中で今回お話をうかがうことができ大変貴重な機会でした。支援を受けることが難しい方々に、何とか ST として介入をされている矢崎先生の思いに心が打たれました。オンラインの良さと、難しさの両側面を知ることができ、自身が日々行っている対面のリハについても改めて考える機会となりました。
- ◎ 今、私は学生なので、臨床がオンラインでできるのかなど具体的なイメージを想像するのは難しかったのですが、これから ST になった時の働き方を考える良い機会となり、視野が広がりました。
- ◎ オンラインでの支援はベストとは言えないこともあると思いますが、言語聴覚療法を届けるためにはオンラインでないと難しい人もおり、ジレンマもあったかと思います。その中でも先駆的に試行錯誤しながらオンラインでの支援を継続されてきた実践を知ることができ、勉強になりました。
- ◎ 離島の方々に支援が必要な方がいても十分な支援が受けられないことについてイメージが持てました。オンラインでもわかる、できることを示して頂き、コロナ禍の状況がしばらく続く中、オンラインでの臨床について考える上で参考になりました。そしてほぼ無償の状態で地道に地域のスタッフと ST として取り組んでこられたことに感銘致しました。今後、オンラインサービスについてのネットワークができると良いと思いました。ありがとうございました。